

温水洗浄暖房便座 (PSC番号:AM-02)

2004.3.1 AM-02
2002.11.14 制定

注)この基準はエコリーフプログラム実施用に作成されたものです。事務局の承諾無く、本内容を他の目的に使用することを禁止致します。

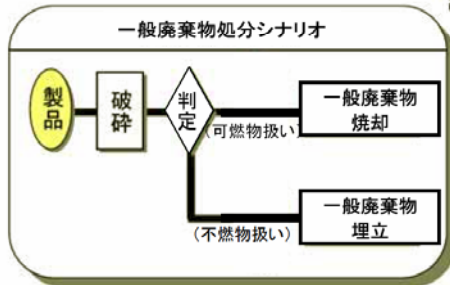
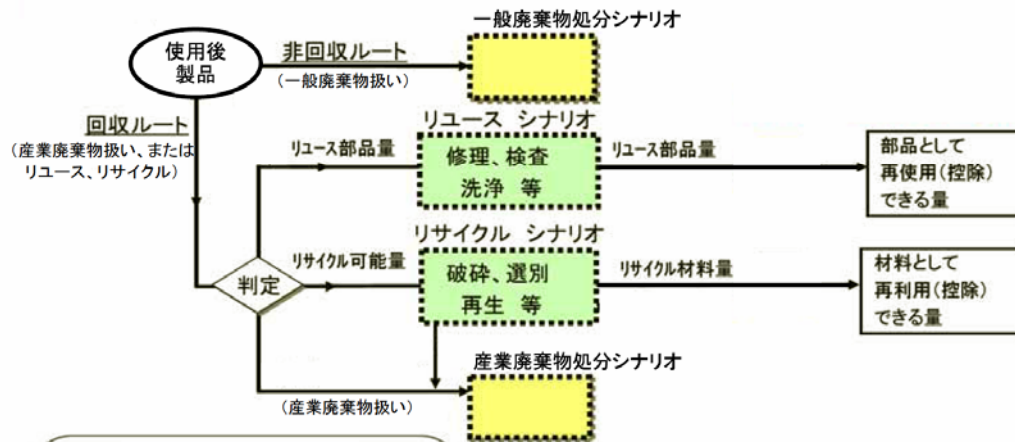
	大項目	中項目	小項目	要求事項
1	PSC設定の前提	製品	定義	シートタイプの便座で暖房便座機能と温水洗浄機能を有する製品のうち、給湯方式が「貯湯式」および「瞬間式」のものとし、セントラル給湯方式のものは除く。 注記:便器・便座一体タイプは、構造上、便器タンクと分離して評価できない為、別製品群とし、本PSCの対象からは外す。
2			範囲	1. 最小販売単位に含まれる本体 2. 上記機能を果たすための付属品類 ・ 分岐金具、フレキホース、リモコン等 ・ 包装(パレットの場合のように再使用されるものは除く) ・ マニュアル
3		ステージ	範囲	全ライフサイクルステージ (本プログラムで規定する全ステージ:製造、物流、使用、廃棄・リサイクル)を対象とする。
4	製品データシート	製品ステージ情報(製品情報)	製品材料または原料構成	1. 部品等A(実施ガイドライン“3.4項”参照)に区分するものは、該当なしとする。 2. 資源投入量は、製品となった段階の材料質量とし、製品質量の%以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分して100%換算する 3. 製品データシートに記載する材料名は普通鋼、SUS、アルミニウム、銅合金(銅含む)、その他金属、PP、ABS、その他熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板の13項目とする。 それ以外のもは原単位名を記載する。 4. オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1)「間接影響」範囲とする工程 (2)「間接影響」範囲内の控除・負荷
5		製品ステージ情報(製造サイト情報)	投入・消費・排出される物質とエネルギー	1. 投入・消費項目 電力、A重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG(都市ガス)、LPG、都市用水、工業用水、地下水 2. 排出項目 特定しないが各社で重要と判断したものを記載する。また副産物、副資材は計上しない。 (注:製造サイトで投入されるが製品と共に出荷されない資材を副資材と定義する。)
6		物流ステージ情報	製品の輸送条件	1. ユーザーまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づく。 2. 国内の輸送距離は500kmとして算定する。 3. 海外生産の場合は海外から国内への製品輸送負荷についても計上する。 4. 包装の廃棄・リサイクルに伴う輸送は8項「廃棄・リサイクル」に計上する。

	大項目	中項目	小項目	要求事項
7		使用ステージ情報	製品の使用条件	<p>1. 標準使用モード</p> <ul style="list-style-type: none"> 電力と水の使用量については「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく、平成年 月 日付け経済産業省 告示第 号「 」に規定されたエネルギー消費効率の測定条件に従い計上する。 但し、製品の機能上、付帯的に使用される水は追加計上する。(具体的には瞬間式での洗浄水噴射時のリリーフ水など) 上記法律(省エネ法)が改訂された場合は、改訂版に準ずる。 <p>2. 消耗品の使用条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本機能を7年間維持して動かすために必要となる付帯物品を消耗品と定義する。 使用量等は、申請各社が設定する自社の実績に基づく標準モデルに従う。(従って、本PSCでは泡洗浄等はオプションの扱いとなるため計上しない。) <p>3. メンテナンス</p> <p>商品の性格上、使用ステージでのメンテナンスは想定しない。</p> <p>4. 使用期間</p> <p>7年とする。</p>
8		廃棄・リサイクルステージ情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>1. シナリオの設定 別紙『使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ』を採用する。</p> <p>(1) 非回収ルートは、「一廃処理シナリオ」を採用。</p> <p>(2) 回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> リユースシナリオ リサイクルシナリオ <p>材料別リサイクル率(=)は、各社で設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ <p>2. 控除のシナリオ</p> <p>別紙『使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ』を採用する。</p> <p>3. リサイクル、リユースの可能性の判定基準</p> <p>本体に関しては、判定基準は各社で、個別に定める。ダンボールに関しては、業界標準値を採用する。</p> <p>4. 製品回収率</p> <ul style="list-style-type: none"> 本体に関しては、各社の実績値とする。ダンボールに関しては、業界標準値を採用する。 段ボールのリサイクル率データは、日本ダンボール工業会が整理・公表している値を業界標準値として採用する。なお同公表値は年々更新されるため、本PSCではエコリーフ発行時点の最新版を採用するものとする。(2002.2.27付け公表地では97.1%) <p>5. オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。</p> <p>(1) 「間接影響」範囲とする工程</p> <p>(2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
9	製品環境情報データシート(PEIDS)	インベントリ分析	LCI計算式	オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDSでは間接影響の合計を「リサイクル効果」欄に記載し、リサイクル効果の内訳をPEIDSの解説欄に記載する。
10		インパクト評価	カテゴリ追加	PEIDSでは「オゾン層破壊」「富栄養化」は対象としない。

	大項目	中項目	小項目	要求事項
11	内訳データシート (製品データシート関連)	データ加工	アロケーション	1. 工程毎の実データを把握することを基本とする。 2. 止むを得ない事情で配分する場合は、工場全体又は各工程のデータを ・生産台数、又は ・重量 で対象製品あたりに配分する。
12		データ収集	収集範囲	1. 対象サイト、工程を収集範囲とする。 2. 生産安定時のデータを使用する。 3. 季節変動のある空調等は年平均、半年平均とする。 4. 照明・空調等の固定部分は工程設定時の計画生産量当りとする。 5. 生産量に比例する組立用の電力や廃棄物は生産量当りで換算する。 6. 新製品等は計画(設計)値でも可とするが、実績が出たら直ちに置換する。
13			カットオフルール	1. カットオフなしを基本とする。 2. カットオフを適用する場合は、その内容と根拠を明確にする。
14	内訳データシート	データベース	原単位データベース	1. 共通原単位から選択する。 2. シリコンゴムには代用原単位として既存のエコライフ用データセットからスチレンブタジエンゴム(SBR)のものを用いる。
15			原単位データベースへの追加	なし
16			特性化係数の追加	なし
17	製品環境情報(PEAD)	製品仕様		1. 方式(貯湯、瞬間式): 貯湯式は貯湯量を記載する。 2. 便座サイズ(共用、大型、標準)を便座開口部縦方向長さで表す。 エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく、平成年 月 日付け経済産業省告示第 号「 」 3. 本ラベルでの公開内容では対象にしていない機能について、以下文例のように記載する。 「本製品は、本ラベルでの公開内容に加えて、以下の機能を有しております。乾燥機能・脱臭機能・室内暖房機能・・・」
18		データ公開内容		1. 記載項目 必須項目として規定(ガイドライン)されている「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目は記載自由とする。 2. 対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。 3. 使用条件の設定 ・使用ステージのモデルは上述「エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく、平成年 月 日付け経済産業省告示」に従うが、PEADではその要点のみを下例のように記載する。 - 家族構成: 男二人、女二人(大人、子供各二人) - 温水洗浄: 温度38度、一回の使用量200ml(瞬間式)/400ml(貯湯式)として一日12回 - 便座保温: 「高温」設定にて一日20.5時間通電 - 主電源: 24時間通電 ・使用期間(7年間)を記載する。4. 表現方法文章、表、グラフいずれの選択も自由とする。 4. 表現方法 (1) ステージ毎の環境負荷は棒グラフで表現する。 (2) オープンライフサイクル/リユースを含む場合は ・「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、独立してステージ毎に点線で表示する。 ・リサイクル効果の内訳は欄外に記載する。
19	その他環境関連情報	選択記載項目		下記のものを記載できる。 1. タイプ/およびの環境ラベル 2. および他のEMS認証の取得 3. 国または工業会等の事実確認のできる認証・認定・表彰



使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ 訂01 2004.03.01



「非回収ルート」：一般廃棄物(市町村責任)として廃棄処理されるとして計上する場合のルート

「回収ルート」：産業廃棄物(事業者責任)として廃棄処理、またはリユース/リサイクルされるとして計上する場合のルート